

NEWS LETTER

第2回は、茨城むらまちネット会長の小菅新一さん(つくばみらい市・NPO法人古瀬の自然と文化を守る会)のご紹介です。

小菅会長が所属する「NPO法人古瀬の自然と文化を守る会」では、都市農村交流事業、環境整備、なのはな教室(不登校の児童を預かる教室)受入れ、古民家松本邸の管理などを行っています。

今年は、イベントは行っていませんが、会員で田んぼアートや畑作に励んでいるそうです。

また、松本邸の管理としては、週2回、窓の開け閉めや除草作業、樹木剪定などを行っているとのこと。



10月には、地元小学校5年生の稲刈り体験に向け、準備をしているそうです。

小菅会長は、今般の新型コロナウイルスの影響で、会員の皆さんがご苦労されているだろうと思いを寄せつつ、この難局時、「“原点を思い・考える”ことが大切ではないか」とおっしゃっています。

編集・発行



茨城むらまちネット事務局
(茨城県農村計画課)

TEL:029-301-4264

Email:nokan4@pref.ibaraki.lg.jp

新型コロナウイルスが流行し、半年が経過しました。会員の皆様の活動も、まだまだ制約があるかと思いますが、農山漁村が元気になるには、あらためて、人と人の交流が大切だと感じています。コロナを機に、インターネットを活用したりモートの交流など、新たな試みも各地で見られるようになりそうです。小菅会長のお話にもありましたが、コロナ禍の今は、これまでの活動を振り返りつつ、今できること、今後やるべきことを考える時間ができた、と前向きにとらえることがよいのかもしれない。インターネットでは、会員の皆様の近況などをお伝えすることで、皆様の活動のモチベーションの維持などにつながればと思っています。

茨城むらまちネット
事務局から